

養成所ニュース

発行

財団法人 日本知的障害者福祉協会
社会福祉士養成所〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-19
秀和第2浜松町ビル6F
TEL:03-3438-0984 FAX:03-3431-1803

第17期生340名が受講スタート！

「第17期・新受講生を迎えて」

財団法人 日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

所長
小坂 孫次

第17期生の皆様。このたびは、社会福祉士養成所のご入学、おめでとうございます。

さて、わが国の社会福祉は、介護保険の見直し、児童福祉法の改正、障害者福祉におけるグランドデザイン、三位一体改革による地方分権の推進等、新たな転換期を迎えています。

そのような中、福祉に対する需要は増大、多様化し、ますます、ソーシャルワークの役割が求められています。そして、皆様方がこれから目指される専門的知識や技術を有した「社会福祉士」の果たすべく役割にその専門職としての実践が大きな期待として寄せられています。

多くの方々が仕事や家事等と多忙な中での受講になるかと思えます。目標に向かって、邁進されることを期待し、今後における御健闘を心からお祈り申し上げます。

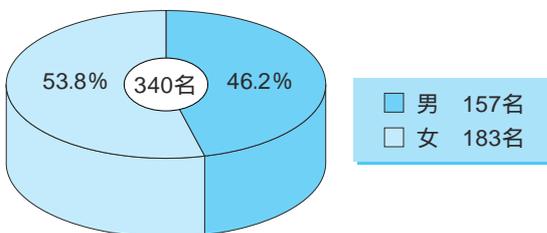
第17期生の概要（4月1日現在）

第17期生社会福祉士養成所の受講生は、340名となりました。概要については下記の通りです。

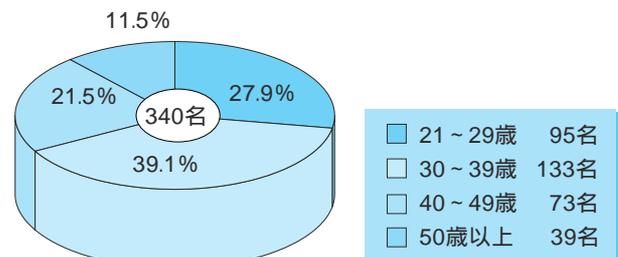
応募状況（過去3年間）

年度（期生）	応募者数	入学者数
平成15年度（15期生）	545名	324名
平成16年度（16期生）	534名	327名
平成17年度（17期生）	475名	340名

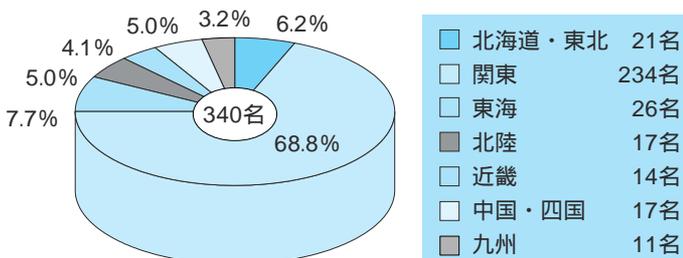
受講生男女比



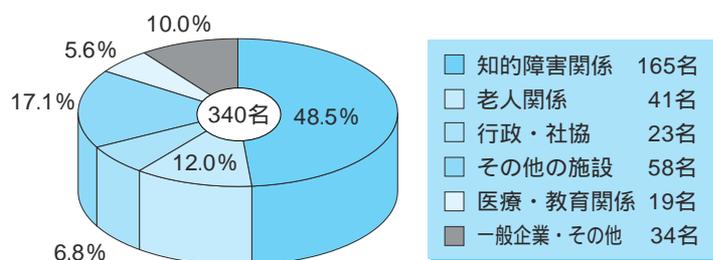
年齢別分布



地区別分布



勤務先種別



国家試験合格状況

第17回社会福祉士国家試験において本養成所より241名が合格しました。昨年度（第16回試験）は199名でした。

これまでの国家試験の結果

	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（％）
第1回試験	1,033	180	17.4
第2回試験	1,617	378	23.4
第3回試験	2,565	528	20.6
第4回試験	3,309	874	26.4
第5回試験	3,886	924	23.8
第6回試験	4,698	1,049	22.3
第7回試験	5,887	1,560	26.5
第8回試験	7,633	2,291	30.0
第9回試験	9,649	2,832	29.4
第10回試験	12,535	3,460	27.6
第11回試験	16,206	4,774	29.5
第12回試験	19,812	5,749	29.0
第13回試験	22,962	6,074	26.5
第14回試験	28,329	8,343	29.5
第15回試験	33,452	10,501	31.4
第16回試験	37,657	10,733	28.5
第17回試験	41,044	12,241	29.8
合計	252,274	72,491	28.7

第17回社会福祉士国家試験合格基準

次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

1 - 1．総得点150点に対し、得点83点以上の者（総得点の60％程度を基準として、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。）

1 - 2．試験科目の一部免除を受けた受験者（社会福祉士及び介護福祉士法施行規則第5条の2）総得点70点に対し、得点40点以上の者（総得点の60％程度を基準として、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。）

2．1 - 1又は1 - 2を満たした者のうち、1 - 1に該当する者にあつては、試験科目（ただし、社会福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。）14科目（1 - 2に該当する者にあつては、6科目。）の各科目すべてにおいて得点があつた者。

第17回社会福祉士国家試験受験状況

受験者	合格者	合格率
41,044人	12,241人	29.8％

第17回社会福祉士国家試験正答一覧

社会福祉原論										
問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	5	1	4	3	3	5	3	1	3	2

社会保障論										
問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	3	1	5	5	2及び5	3	2	2	4	5

公的扶助論										
問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	4	3	3	4	3	5	3	1	2	1

地域福祉論										
問題番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正答	4	2	2	4	2	1	5	3	2	2

心理学										
問題番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正答	5	5	4	1	1	3	3	5	2	4

社会学										
問題番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
正答	3	2	3	3	3	2	2	5	1	4

法学										
問題番号	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
正答	5	1	3	3	5	3	3	4	2	2

医学一般										
問題番号	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
正答	1	4	4	2	3	5	2	2	4	3

老人福祉論										
問題番号	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
正答	3	3	2	1	4	3	4	1	1	2

障害者福祉論										
問題番号	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
正答	2	4	2	3	5	3	3	1	1	5

児童福祉論										
問題番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
正答	3	3	2	2	5	3	1	5	2	2

社会福祉援助技術（一問一答問題）										
問題番号	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
正答	1	2	1	5	2	1	3	2	4	5
問題番号	121	122								
正答	2	3								

社会福祉援助技術（事例問題）										
問題番号	123	124	125	126	127	128	129	130	131	
正答	3	4	5	2	1	3	2	4	2	
問題番号	132	133	134	135	136	137	138	139	140	
正答	3	2	4	2	3	1	1	1	4	

介護概論										
問題番号	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
正答	2	3	3	5	2	1	3	5	4	5

国家試験合格者の声

青木浩子さん

「仲間に支えられて」

私の試験勉強を一言で表現するならば、目まぐるしい福祉動向への対策としての情報収集でした。意気込んで購入した六法等の参考図書は、勉強が進むに連れ内容が古く感じられ、常に最新の情報源を確立する必要性を感じました。しばらくはこの激しい動向が続くそうですが、どん欲に知識を収集する姿勢を身につけることは、今後の社会福祉士としての創造力や行動力を必ず支えてくれると考え試験対策に偏らない情報収集が、結果として成功に結びつくと思っていました。

当初から「国家試験はただ自分の頭に知識を詰め込むのではなく、専門職としての資質を育ててくれる機会でもある」と自分に言い聞かせ、そのためには何をすべきかを考えた時、私はスクーリングや勉強会を知り合った仲間や、得意なネットの掲示板でどんどん仲間の輪を広げるということを具体的な情報収集活動と位置づけました。

様々な情報収集と共に人脈が広がり、共通の話題や問題意識をもつ仲間と刺激し合い、それがモチベーションの維持に繋がったのは思いもよらない効果でしたが、今振り返れば試験突破の最大の勝因になったと思っています。

福祉の現場で大切なのは「連携」だと言われますが、それは決して機関のネットワークのみならず「人間同士」のつながりが重要だと考えています。

人間関係の希薄な現代だからこそ、本当に心から打ち解けられる「仲間」が必要なのもかもしれない。孤独な社会の中で生き抜いていく今だからこそ、同じ価値観と目標の中で、共に学んだ仲間は、試験が終わってからも、福祉人として強い絆の元に連携がとれると思います。

合格発表の日、試験センターのHPになかなかアクセス出来ずにイライラしていた私に、一人の友達が自分のことのように時間を取ってくれて、最終的に合格の確認と報告をしてくれました。

社会福祉士資格をとるんだと自分の中で構想してから足掛け7年、合格できたことと同じくらいに、試験勉強を励ましあった仲間と共に、そのゴールインの喜びを分かち合えた事に感激しました。

社会福祉士として活動する土壌は、机上では得られないと思います。皆さんもどんどん仲間を作り、輪を広げてみて下さい。仲間がいることで、自分の新たなエネルギーが不思議と湧いてくると思いますし、それは、資格保持者としてスタートした後で、人脈という無限の社会資源を手に入れていることになると思います。私たちの頑張りや、利用者の幸せにつながる事を信じて、これから挑戦される皆さんも是非頑張り、沢山の仲間をつくって下さい。

渡辺智里さん

私は養成所の受講が始まったと同時に異動となり、上司も同僚も新しくなった為スクーリングや実習のための休みをもらうのは大変でしたが、私の職場では働きながら受験資格を得るという前例がない中、幸いにも快く送り出してもらえました。そのため、社会福祉士を目指しているということが職場の人たちに知られていたため、かなりプレッシャーにもなりましたが、おかげで「迷惑をかけているのだから頑張らなくてはい！」と励みにし、修了証書と合格通知を手にする事ができました。

そんな私が受験に際して感じた事は「スクーリングを有効活用した方が良い」と言う事です。通信という『独学』ではやはり、孤独であり不安で、限界もあるかと思えます。

スクーリングでの先生方のお話、そのときはちょっと難しくても、あとになって理解できる事もありましたし、先生方のお話を聞いて、苦手としていた科目が、理解し易くなった事もありました。

「テキストを読んだり問題を解いたりといった目からだけの情報(勉強)だけでは限界！視覚や聴覚を使った方法はないかなあ？」受験勉強の後半、とても感じました。講義は、修了してしまっただけでは、聞きたくても聞かせないのでスクーリングは絶対有意義に過ごすべきです！これは、修了後、本当に感じました。

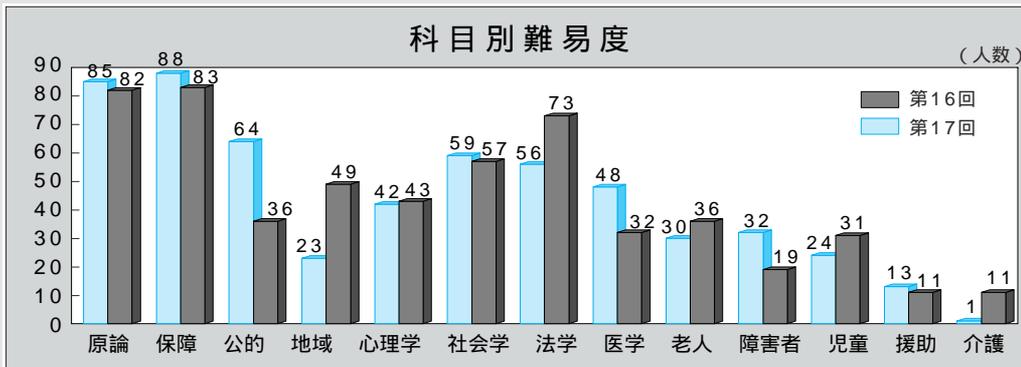
また、スクーリングでは、全国からいろいろな方が集まってくるので、演習の授業などを中心に、仲間を作るのも楽しいと思います。なかなか声をかけることは大変ですが、隣の席に座った方など、これも「縁」かもしれない。いろいろな情報交換をしたり励ましあったりして刺激しあうのも良いかも知れませんね。

試験当日は、多くの受験者に圧倒されるかもしれません。そんな時、一緒に勉強してきた養成所の仲間が近くの席にいて少し気が楽になったりもしました。

周りが、テキストとらめっこしている中、私はリラックスを心がけました。「もう今からでは頭に入らない！覚えた事を忘れてしまっそう...」あとはやるだけです！！

仕事や家庭との両立は大変だと思いますが、社会福祉士を目指そうと思った時の気持ちを忘れず、自分なりの勉強方法を見つけ、頑張ってください。

第17回国家試験に関するアンケートについて



平成16年9月に修了した第15期生319名を調査対象とし、222名(受験をした194名、申込をしたが当日受験をしなかった12名、申込をしなかった16名)からの回答が得られました。(5/13現在)

左図は受験者の意見を参考に科目別難易度を示したグラフです。

社会保障論・社会福祉原論・公的扶助論・社会学・法学の順に難しいと回答しています。

なお、昨年度と比較すると公的扶助論の難易度が高くなっています。

厚生労働省へ報告の関係上、現在もアンケートは回収しています。なお、回答がない方には、催促の連絡をする場合がありますのでご了承ください。

残念ながら合格できなかった方々からの反省とコメント (アンケートより抜粋)

とにかく勉強しなきゃだめです。もっと早期に受験準備をすれば、よかったと思う。基礎的な学習ができなかった。苦手科目を十分勉強できなかった。課題のレポートに追われ、試験勉強ができなかった。残業が多く学習する時間をとれなかった。残業を減らして、次回ががんばります。時間があまりとれなかったので過去問を中心に勉強した。過去問のみで要点をしっかり押さえていなかった。

過去問よりも現在の社会福祉の動向。最後まであきらめずにテキストを熟読すべきであった。今回、ノロウィルスの流行とかち合い、私自身も体調を崩してしまい断念しました。来年はしっかり体調面も管理して、再度挑戦したいと思います。(未受験) スクーリングで得たモチベーションの高さを維持することができなかった。仕事をしながらの計画的学習の難しさを痛感する。自宅で模試は受けたのですが、時間配分とか雰囲気など自分のペースで受験できるよう、会場模試が必要だと思いました。何度も模擬試験を受けて、時間配分など慣れておけば良かったです。その他のコメントにつきましてはホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



お知らせ

さぼーと倶楽部
(施設職員互助会)

さぼーと倶楽部(施設職員互助会)では、平成17年度より資格取得祝金(10,000円)を新たに新設いたしました。

さぼーと倶楽部会員(施設職員互助会加入期間6か月以上)で平成17年4月1日以降に社会福祉士として登録した方が対象です。

詳細は下記までお問い合わせ又は当協会ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先】さぼーと倶楽部(施設職員互助会)係 電話 03-3438-0466

施設職員互助会とは...本協会会員・準会員施設に施設に勤務している方を対象とした福利厚生事業です。

「資格取得祝金」新設！

専任教員の 独り言

～弛まぬ歩み～



社会福祉士養成所

専任教員 五島 秀一

第17回国家試験の合格発表の結果、本養成所からは241名の方が合格されました。本養成所史上最高の合格者数であり、過去最高の難易度だったと推察される今回、このような素晴らしい結果を残された15期生を中心とした皆様には衷心よりお祝いを申し上げます。社会人としての夫々のお立場や職務あるいは家事育児といった、学びの環境としては様々な制約や困難があったと思いますが、それを見事に乗り越えられたことに、満腔の敬意を表したいと思います。

今回の合格状況を分析すると、まず年齢別では30歳以下が合格者全体の67.5%を占めています。平均年齢が約37歳の本養成所受講生にとっては、まさしく老体にムチ打った挑戦だったのかも知れません。次に、受験資格別で見ると福祉系大学卒業者が63.3%を占め、本養成所のような一般養成施設率は36.3%に過ぎません。一般養成所から社会福祉士になることが益々難しくなっていることを数字が示しています。ところが、全体の合格率が29.8%だったのに対して、本養成所は約80%という高い数字を示しました。(正確には15期生以外の卒業者も含まれる為、現役合格率ではありませんが...)この大きな合格率の差は、何が原因なのでしょう。

私は、志の違いだと確信します。
「志」、つまり福祉界へ飛びこもうとする決意、資格に対する情熱、福祉人として人生を歩もうとする覚悟といった要素が充実しているかどうかに影響を受けていると思うのです。決して若い世代の皆さんがそういうものを持ち合わせてないとは言いませんが、もう後がない(私自身の感覚ですのでご容赦ください。)熟年層の皆さんとは、おのずと違いがあるということです。

多くの受講生に接してきて最近私が思うのは、このような高い志や福祉的価値に気付くにはある程度の人生経験が必要なのかも知れないということです。国家試験の選抜においては、そうした志を持ち合わせた人に資格保持者になって欲しい訳であって、いきおい、問題編成の中にはそうした狙いが反映されている(知識よりも倫理観を問うような設問)ような気がしないでもありません。

また、「社会福祉教育」と「社会福祉士教育」は違うと言われます。つまり、社会福祉教育は福祉的な価値や技術を知識として伝えますが、社会福祉士教育の方は、そうした価値や技術を駆使できる「人」を育てる教育なのです。このような意味において、「人」として経験豊富な熟年層の皆さんの方が福祉的価値に接近しやすく、そうした事が、高い合格率を示す要因なのだと思います。しかし、若い世代の方も諦める必要はありません。それらの価値に気付く為の「経験」は「年齢」ではないからです。

「志」という字は、「土の心」つまり「立派な人の心」と書かれています。つまり、社会福祉「士」として認められるということは「立派な人の心」があると認められる訳です。しかし、忘れてならないのは、資格を保持したから立派なのではなく、福祉人として「弛まぬ歩み」を続ける姿の中にこそ国家資格保持者の価値があるということです。この「弛まぬ歩み」こそ「経験」なのです。

国家資格保持者となられた皆さんはその人生経験に溺れることなく、また

若い方々は様々な人生を受け止められるように、今後とも自己研鑽に励まれ、日夜利用者の幸せに思いを馳せるような、志ある「弛まぬ歩み」を重ねる支援者になって頂きたいと思います。

皆さんがこれから関わることになる「対人援助」とは、人が人に対して行う支援に他なりません。つまり、支援の前提として人と人とのお付き合いが存在するので、支援をする側される側ではなく、互いを尊敬し、認め、高めあうような関係が求められます。これからの福祉は、このような関係が存在して初めて機能します。従って「これからの福祉」を「駆使する人」である社会福祉「士」は、自ら「人」としての価値をひたすら高めるべく、「弛まぬ歩み」を続ける以外に生きる道はないのです。歩み続ける事、即ち実践あるのみ。福祉が実践科学だと言われる所以なのです。立ち止まることなく、いつも利用者と共に歩み続けて頂きたいと思います。

次に、17期生として入学された340名の皆さん、おめでとうございます。

17期生の皆さんが国家資格を取得する時期は最長で19年4月です。その頃にはどんな福祉施策が動いているのか想像出来ないほど、とにかく想像を絶するスピードで福祉が動いています。その中で、社会福祉士に求められる役割や機能といったものも益々重要かつ複雑になって行くのは必至ですが、それらの時代の変化に即した社会の負託に応えるのが社会福祉士の責任です。福祉はその時代の価値を如実に反映します。激しく動く「福祉を学ぶ」ということは、激動する「時代を学ぶ」ことに他なりません。言い換えれば、時代に背を向けて福祉人として歩むことは許されないのです。

どんな世代の方も、自分が生きてきた時代の価値観に囚われる傾向がありますが、福祉の道を歩むということは、その時代の先頭の価値を身につける事、即ち「弛まぬ歩み」を続ける事に他ならないということ、学びを進めるに当たって改めて認識して頂きたいと思えます。

通信教育というシステムの中で学ぶということは、偏に自らをより厳しく律することが出来るかどうかにかかっています。1年6ヶ月の間、仕事や家庭と学習を両立させなければならないのですから、そこには必ず困難があり曲折が訪れます。入学時の決意や覚悟といった志を忘れることなく、真に福祉人の仲間入りすることを目指して、継続学習という弛まぬ歩みをされることを切に期待しています。

どうしても挫けそうになった時は、利用者が皆さんの登場を待っている事に思いを馳せましょう。どんなに、制度や施策が変わろうとも、それらが利用者の幸せに直結するものではありません。福祉サービスが、常に対人援助を媒介するという特性がある以上、彼らの幸せの度合いは支援者の力量とイコールなのです。

福祉は人なり.....、先人の弛まぬ歩みが辿り着いた真理です。

訪問介護員 障害者(児)ホームヘルパー 養成セミナー

2級課程(通信) 8月・10月開講 受講生募集中!!!

あなたも福祉社会の
担い手として活躍しませんか

ホームヘルパーは.....

- ↑ 増大する介護需要の中で、実務に携わる担い手として活躍しています。
- ↑ 地域社会の身近な福祉専門職として高齢者や障害者の社会活動の支援をします。
- ↑ ご家族の介護のために、習得した知識と技術が役立ちます。
- ↑ 知識と技術を活用した就業を得る機会が増大します。

セミナーの特徴

- ↑ 「訪問介護員(介護保険制度)と「障害者(児)居宅介護従業者」(支援費制度)の両方のホームヘルパー研修が同時に学習できます。
- ↑ 訪問介護員2級修了証と障害者(児)ヘルパー2級修了証が同時に取得できます。
- ↑ 知的障害者福祉関係団体としての実績と経験が研修に反映されるため、知的障害者福祉に関する深い知識と確かな技術が身につきます(知的障害者福祉に関する独自のカリキュラムを追加)。
- ↑ 手頃な受講料と安心の指導体制。
- ↑ 通信教育による自宅学習と土曜日中心のスクーリング日程。

申し込み書類請求方法

当協会ホームページよりダウンロードもしくは下記宛にハガキ・FAXにて請求してください。

受講料 授業料 70,000円 テキスト代 6,800円

お問い合わせは ホームヘルパー養成研修係 まで。 財団法人 日本知的障害者福祉協会

平成17年度 購読のご案内



知的障害福祉研究

お申し込みは
当協会『さぼと』係まで

- 毎月15日発行 ● B5判76ページ
- 1部 580円(税・送料)
- 年間購読料 6,300円(税・送料)
- ★ 当協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます(1部470円)。

☎ 03-3438-0467 FAX 03-3431-1803
http://www.aigo.or.jp/support.htm

平成17年度スクーリング日程

第17期生前期 : 平成17年7月11日～13日 / パシフィコ横浜

第16期生後期 : 平成17年8月15日～21日 / パシフィコ横浜

第17期生前期 : 平成17年11月23日～26日 / パシフィコ横浜

養成所に対するお問い合わせ先

(財)日本知的障害者福祉協会社会福祉士養成所

〒105-0013東京都港区浜松町2-7-19秀和第二浜松町ビル6階

TEL.03-3438-0984

ホームページアドレス http://www.aigo.or.jp/

メールアドレス yoseijo@aigo.or.jp

養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。